

無料

思春期の 発達障害の理解

11/1(火)9時から『サイタマどうが』にて配信開始



講師 白百合女子大学人間総合学部発達心理学科
教授 医学博士・小児科医

みやもと しんや

宮本 信也 氏

【プロフィール】

金沢大学医学部を卒業後、自治医科大学付属病院、筑波大学教授、筑波大学附属聴覚特別支援学校校長、筑波大特別支援教育研究センター長、筑波大学副学長・理事・附属学校教育局教育長を歴任。2018年からは白百合女子大学人間総合学部発達心理学科学科長、副学長、現在は、同大、学長特別補佐を務める。

思春期では、自分のことをより客観視できるようになり、自分自身のことをより考えるようになります。

また、生活のすべてを保護者に依存していながらも、気持ちの上では自立志向が高まることもいわれています。このようなことを背景に、思春期では、イライラしがちとなったり、大人に反発しがちになったりしやすくなります。発達障害のある子どもの思春期における「問題」も、こうした通常の思春期心性で理解できるもの（思春期課題）と二次障害的なものに分けて考えることができます。前者は、状態を改善するという方向ではなく、発達障害特性に配慮した関わりによって時間経過で落ち着く場合がほとんどです。

今回は、発達障害のある子どもの思春期課題について解説します。

対象 どなたでも視聴可能です。

- 埼玉県トップページ
- 組織から探す
- 福祉部→福祉部の地域機関
- 発達障害総合支援センター
- 新着情報をチェック!



備考 ・動画視聴にかかる通信料等は、視聴される方の負担となります。

・本講演の録画・録音・撮影、および資料の2次利用、詳細内容のSNSへの投稿は固くお断りいたします。これらの行為が発覚次第、著作権・肖像権侵害として対処させていただく場合がございます。

お問い合わせ

埼玉県発達障害総合支援センター
TEL:048-601-5551 FAX:048-601-5552
〒330-0081
さいたま市中央区新都心1-2
小児医療センター南玄関3階

彩の国
埼玉県

